
魔法少女のぞみ マギカ

白萩之右

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女のぞみ マギカ

【Nコード】

N1765Z

【作者名】

白萩之右

【あらすじ】

魔女がいなくなり、代わりに魔獣が跋扈する世界。魔法少女の望月のぞみは、ある日魔獣ではない何かに襲われ、危ないところをほむらに助けられる。

この話は、登場人物のほとんどがオリジナルキャラクターで占められます。主人公もオリジナルキャラクターです。

1話

すべての魔女を生まれる前に消し去りたい。

彼女はそう願って概念となった。

彼女の人生に始まりも終わりもない。

彼女は今でも 未来永劫にわたって 魔女を救済し続けている。

だからあれは魔女などではない。

この世界に魔女など存在しない。

私はあれを魔女と認めない。

望月のぞみは困惑し、怯えていた。目の前にいるあれは、いったい何なのだ。いつものように魔獣退治をしていたら、突如として薄気味悪い景色と共に現れたのだ。魔獣ではなかった。彼女が魔法少女になってから、あんな魔獣は一度も見ることがなかった。

そもそも魔獣は、どれも画一的な外見をしている。のぞみが見ているそれは、画一的とは程遠い、対極に位置するような、やたらと個性的な見てくれをしていた。

そのやたらと個性的な、歪な怪物からは、強烈な悪意や憎しみが感じ取れた。というより、それしか感じ取れない。

あの怪物はまるで、純粋な負の感情でできているかのようなだった。のぞみは背筋が凍った。体中が震え、吐き気がこみ上げてくる。

不快 というよりかは恐怖だった。これほどまでに負の感情に当てられるのは、初めての経験であり、ただひたすら恐怖しか生まれなかった。

怪物が迫ってきた。逃げなければ、とのぞみは思った。頭の中に反撃という選択肢は、消えていた。しかし、彼女の足は動かなかっ

た。動けと命じても、ただ震えているだけだった。

のぞみの事情などお構いなしに、怪物は徐々に徐々に距離を詰めてくる。まるで処刑台の階段を上らされている気分だった。

死、という単語が頭の中で浮かんた。そしてそれはだんだん大きくなくなってくる。

だが相変わらず いや、むしろ死との距離が縮むほど、彼女の体は恐怖で固まっていった。そして怪物が、死が、彼女の目前まで迫った時

一筋の光が走った。それは光の矢だった。矢は怪物を貫き、爆散させた。

怪物がやられたせいか、薄気味悪い空間が消滅して、現実のビルと星空の景色に戻った。死という単語も、処刑台の階段も消えてなくなっていた。

「危ないところだったわね」

後ろから少女の声がした。その声によってのぞみの意識は、恐怖という呪縛から解放された。そうして、声がした方を振り向くと案の定と言うべきか 弓を持った少女がいた。冷静沈着そうな佇まいだが、赤いリボンで結ったツインテールが可愛らしくもあった。

「……魔法……少女？」

のぞみは呆けたようにつぶやいたが、すぐにハッとして、

「あつ、危ないところを助けていただき、ありがとうございます。」

私、望月のぞみっています」

と深々と頭を下げて礼を述べた。

「暁美ほむら、あなたと同じ魔法少女よ」

のぞみに自己紹介をしたら、ツインテールの少女も自身について名乗った。

「ところで、あれと出会ったのは、今回が初めてかしら？」

ほむらはのぞみの目を、ジッと見ながら訊いた。彼女の眼差しは真剣そのものだった。

「え？ あ、はい。あんな魔獣（？）初めて見ました」

その眼差しに圧されてか、のぞみは若干ビクつきながら答えた。

「あのつ、……あれがいつたい何か、ご存知なんですか？」

先ほどの怪物のことだ。何と呼ばばいいのか分からなかったので、魔獣に疑問符をつけてみたが、魔獣でないことぐらいいは、誰の目から見ても明らかである。その怪物について、のぞみの目の前にいる少女は、何か知っている風なのだ。気にならないはずがない。

ほむらは星空を見上げ、どこか思い出に浸るように口を開いた。

「そうね、あれは」

そうしてのぞみの問いに、こう答えた。

「魔物、と私は呼んでいるわ」

1話（後書き）

というわけで私的妄想魔獣編です。登場人物はほとんどがオリキヤラになる予定です。ちなみに、ほむほむは漫画版のツインテほむです。ツインテほむ可愛いですね。

2話

「魔物……ですか？」

「そう、魔物よ」

のぞみとほむらは、ショッピングモールの中にある、ファーストフード店にいた。あの時は、もう夜も遅かったので、翌日に学校が終わってから、改めて話をしようということになったのだ。のぞみはポテトとバニラシイク、ほむらはコーヒーを注文していた。

「ほむらは、その魔物のことを調べているんですか？」

のぞみの質問に、「そうよ」とほむらは答え、詳細を語りだした。話はこうだ。ほむらはおよそ半年前に魔物のことを知った。発生の原因について、魔物を倒しながら、しらみつぶしに調べていた。

そうしてこの街でも、何か手掛かりがあるか調査していたら、昨晚の出来事に至った。

「魔物の正体も発生原因も、私の知る限りではまだわかっていないわ」

結局、自身の状況を説明しただけになってしまったが、ほむらの話をのぞみは、真剣な面持ちで聞いていた。優しい、良い子なのだろう、とほむらは思った。のぞみにどことなく似た、優しい少女のことを思い出す。もっとも、彼女のことを覚えているのは、ほむらだけであつたが。

だからかもしれない。

ほむらはのぞみに対して、罪悪感を抱いていた。

魔物について、何もわかっていないと言ったが、実はほむらには、魔物の正体に心当たりがあつた。

なぜなら魔物は、あれによく似ていたからだ。

ほむらはそのことを、誰にも言うつもりはなかった。

言ってしまうえば、あの時の　巴マミに関しての　苦い記憶が再現されてしまうかもしれないし、何より彼女の願いを、否定しま

うような気がしたからだ。

けれども、目の前の少女にそれを隠すのは、彼女に隠し事をして
いた時のような気分だった。

ほむらは、カップを手に取り、口へ運んだ。罪悪感をコーヒード
流し込んでしまいたかったからだ。

「あの……ほむらさん……」

のぞみに話しかけられ、ほむらは一瞬ドキリとした。隠し事が感
づかれてしまったのだろうか。

「何かしら？」

すぐに心を平静にして、のぞみの方へと視線を向けた。のぞみは
何かを遠慮しているような、迷っているような表情を浮かべていた。
だがそれは、わずかな時間だった。のぞみの表情は、意を決したも
のへと変わり、こう言った。

「私も魔物の調査、手伝わせてください」

ああ、その話が、とほむらは思った。のぞみと同じように、協力
を申し出た魔法少女に、何度か出会ってきた。けれどもほむらは、
それをすべて断っていた。先ほども述べたように、魔物の正体につ
いて、多少気がかりだったからだ。

だから今回も、のぞみの申し出を断るつもりだった。だが

「わたし、みんなを護りたいんです。みんなの希望になりたいんで
す！」

だが のぞみが、どことなく彼女に似ていたせいかもしれない。
のぞみの言葉に、ほむらの心が、僅かに揺らぐ。

のぞみの目は、希望と自信に満ちていた。はじめて出会った時の
彼女と、同じ目だった。けれども、その時の彼女は、みんなを護る
ために戦い、そのまま

「……好きにしていいわよ」

言ってしまった、とほむらは後悔の念に駆られる。

いや、見張りだ。これはのぞみが昨晚みたいに、危険な目にあわ
ないように、見張るためなのだ。ほむらは、そう自分自身に言い訳

をする。

「ありがとうございます。ほむらさんのお役に立てるように、一生懸命頑張ります！」

のぞみはほむらの手を取り、とても喜んだ顔で礼を言った。その目は、眩しいほどに輝いていた。

こうしてほむらはのぞみと一緒に、魔物の調査をすることになった。

2話（後書き）

そんなわけで第2話です。

ところで、The Beginning Storyを買いました。10話でほむほむの持っている銃が、アニメと漫画で違うのですが、The Beginning Story読んだら疑問が解消されました。脚本だとほむほむ、デザートイーグルじゃなくて、リボルバー使ってたんですね。

そんなわけでThe Beginning Storyオススメです。まだ買ってない人はぜひ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1765z/>

魔法少女のぞみ マギカ

2011年12月21日13時51分発行